市政フラッシュ mihara

「海霧の三原と瀬戸内海の多島美」写真コンテストの入賞作品が記念切手に

昨年度開催した「海霧の三原と瀬戸内海の多島美」写真コンテストの入賞作品10点が、記念切手になりました。各切手には、筆影山・竜王山から見た美しい風景と「三原市」の文字が入り、三原の魅力を全国に発信しようとする思いが込められています。

切手シートは、80円切手10枚セットで1,200円です。販売部数は1,000部。市内の簡易郵便局を除く28郵便局で8月31日(月)まで販売されています。

昨年度開催した「海霧の三原と瀬戸内海の多島美」写真コンテストには、県内外から幻想的な海霧や筆影山の桜などを写した1,547点の作品の応募がありました。

今年度も昨年度に続いて、全国規模の写真コンテストを開催します。今年度のテーマは、広報みはら9月号でお知らせします。

▲黄金色に輝く海霧が切手に

男女共同参画講演会を開催

6月6日、市民福祉会館で、産経新聞大阪本社の石野伸子さんを講師に、「仕事も家庭も欲張って生きる女性記者の35年」と題した、みんなの男女共同参画講演会が、みはらウィメンズネットワークの企画で開かれました。

石野さんは、35年前に産経新聞大阪本社へ入社。しかし、入社当時、女性は、新聞記者として一番忙しい深夜に働くことができないため、補佐的な仕事しか与えられず、夜7時になると「もう帰っていいよ！」と言われ、一人前の記者として扱ってもらえませんでした。1986年男女雇用機会均等法が施行されてから、各社において女性記者の採用も増えはじめ、その実力も認められてきました。

記者としての転機は、1995年阪神・淡路大震災を体験し、被災した目の前の状況を原稿にし、そのリアリティあふれた記事が高く評価されたことです。自分の体験や感じたことをそのまま記事にすることで、多くの人の共感を得ることに気づき、記者としての顔が見える記事を書くことを心がけています。

また、50歳のとき、夫と子どもを大阪に残し、東京に単身赴任した経験を持ち、「幸福感が高く、豊かな感受性を持ち、現実に適応できる女性が主導権を持つことが、男女共同参画社会の形成につながります」と話され、100人を超える市民は、石野さんのユーモアを交えた経験談に聞き入りました。

35年間の記者生活を女性の視点で話されました▲

平成20年度の予算執行状況をお知らせします

平成20年度の予算執行状況（3月31日現在）は、次のとおりです。

○一般会計

予算総額488億7,320万円に対して、収入済額381億3,517万円（予算額の78.0%）、支出済額364億7,726万円（予算額の74.6%）です。

※5月末の出納閉鎖後における歳入と歳出は、予算額程度を見込んでいます。

○特別会計（公営企業を除く）

予算総額276億2,306万円に対して、収入済額204億9,643万円（予算額の74.2%）、支出済額230億3,831万円（予算額の83.4%）です。

○市債

道路、学校などの建設や、災害復旧事業などの財源にあてる長期の借入金です。3月末の市債の残高（一般会計と特別会計の合計）は、835億8,221万円です。

○病院会計

収入は、4億3,600万円、支出は4億3,548万円で、差し引き52万円の純利益となりました。

○水道会計

収入は、27億1,119万円、支出は25億7,221万円で、差し引き1億3,898万円の純利益となりました。

問い合わせ先　財政課（☎0848(67)6028 FAX0848(64)7101）